平成２７年　１１ 月　３０ 日

平成２７年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２７年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成27年4月21日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第２学年	国語　１２７人	社会　１２７人	数学　１２７人
	理科　１２７人	英語　１２７人	

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

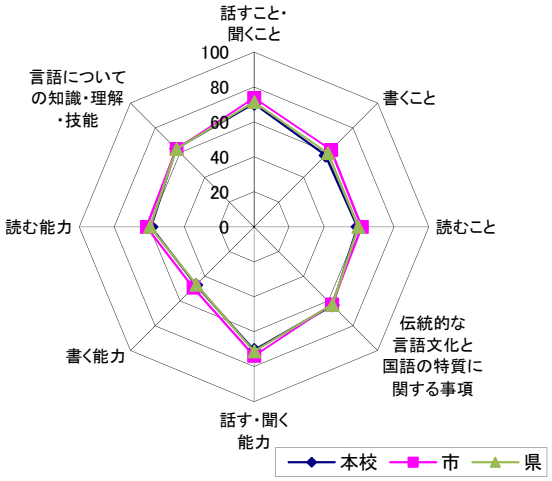
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	70.5	73.8	71.3
	書くこと	57.8	62.2	59.6
	読むこと	59.1	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.5	62.9	63.1
観点	話す･聞く能力	70.5	73.8	71.3
	書く能力	47.1	49.2	46.8
	読む能力	59.0	61.5	59.6
	言語についての知識･理解･技能	63.2	62.9	62.9



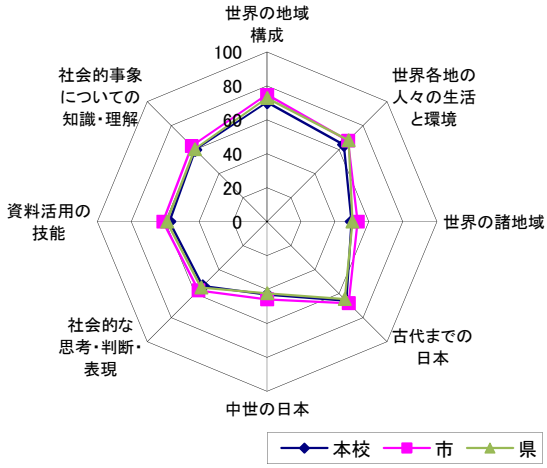
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○司会者の話し合いの進め方の工夫については84．4%の正答率であった。 ●聞き手に理解してもらうための話の構成や話し方の工夫の理解は54．1%と県平均の54．5%に及ばなかった。各項目とも県平均に肉薄しているがポイントが追い付いていない。	･話し合い活動の場面を効果的に設定していく。ただ，話し合いをさせるのではなく，何ができればよいのかということを明確にして活動に取り組む。
書くこと	○登場人物心象描写に注意して読み、感想を指定字数内で述べる問いは県平均を3.9ポイント上回った。また、言葉を書き足して意見を完成させる問いは1.2ポイント上回った ●二つの作品から、一つ選び表現の良さを書く問題は1.9ポイント県平均より低かった。	･書くことの場面設定が全体的に足りていない。日ごろから書く場面を多く設定し、書くことに慣れさせていく。小作文に取り組む機会を設けていく。また，条件に沿った文章が書けるように，型やモデルを示すなど，指導を工夫する。
読むこと	○文章の構成や展開を捉える問題では，市や県の平均を上回った。 ●文学的文章はおおむね県平均と同等であったが、説明的文章は県平均を下回るものが多かった。	･キーワードとなる言葉をとらえ、指示語や接続語の意味を考えて読む活動を取り入れていく。また、文章の内容を整理し、要旨をとらえる活動を方法を明示し習得できるように指導を工夫していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いにする問題は8割以上が正答であった。 ●漢字の読み書きについては，定着している漢字とそうでない漢字がはっきりしている。	･普段の授業から，既習漢字を使って文章を書くように指導していく。また，小テストを行ったり，辞書を引かせたりして，正しく習得できるように指導を工夫していく。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	70.4	74.8	72.8
	世界各地の人々の生活と環境	64.0	67.5	67.8
	世界の諸地域	49.8	53.4	50.2
	古代までの日本	66.0	68.0	64.6
	中世の日本	43.1	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	53.7	57.3	55.0
	資料活用の技能	57.7	61.4	59.1
	社会的事象についての知識・理解	59.9	62.9	60.3



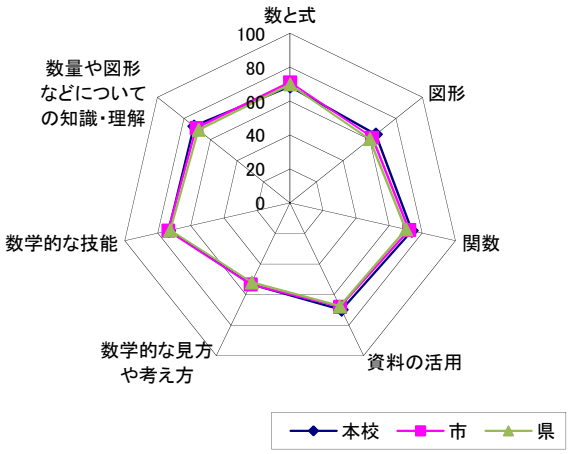
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の地域区分については、きちんと理解している生徒が多い。 ●緯度と経度の理解をもとに、地図を読み取る問題については、県の正答率を大きく下回っている。	・地図の読み取りの技能を高めるために、授業内で地図帳を活用し、地図に慣れるようにさせ、苦手意識を取り除くようにする。世界の国々の名称や位置も、調べ学習を通して体験的にとらえられるようにしていく。
世界各地の人々の生活と環境	○世界各地の人々の生活については、県の正答率を上回っている。 ●雨温図をもとに、世界各地の人々の住居を判断する問題については、正答率が大きく低下する。	・グラフの読み取りについては、グラフを比較し、違いを発見させるなど自ら気づくようにさせたい。
世界の諸地域	○偏西風がヨーロッパ州の気候にもたらす影響を理解している生徒が多い。 ○オーストラリアの先住民についてきちんと理解している生徒が多い。 ●ヨーロッパ州の国々の名称と位置について理解できていない生徒が多い。 ●複数の資料を読み取って、考察することができない。	・それぞれの州にはさまざまな特徴があることを押さえ、小テストなどを活用して世界の国々の位置と名称を確認させ、知識の習得や資料を活用する力を身につけさせたい。
古代までの日本	○縄文時代から古墳時代までの歴史の流れを理解できている生徒が多い。 ○平安時代の人物などに関する理解は県の平均よりも高く、しっかりと定着している。 ●資料を読み取って、判断する問題については正答率が低下する。	・おおまかな歴史の流れは理解しているので、小テストなどを活用して、資料を読み取る力を高めたい。また、授業の中で頻繁に資料読み取りの時間をもうけたい。
中世の日本	○鎌倉時代から、室町時代までの流れを理解している生徒が多い。 ○鎌倉時代の経済活動についての問題に対する正答率が高い。 ●年代の表し方について、理解していない生徒が多い。	・世紀を問う問題の正答率が低かったので、小テストなどを活用して、確実に理解させたい。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	68.8	71.2	69.8
	図形	64.7	61.9	60.2
	関数	73.7	72.1	70.1
	資料の活用	70.0	68.0	67.6
観点	数学的な見方や考え方	53.2	53.4	52.1
	数学的な技能	73.4	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	72.5	70.8	69.1



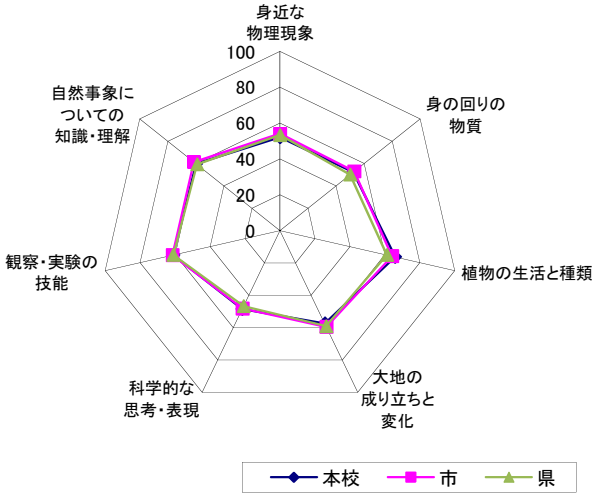
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数の四則計算や小数を含む１次方程式の計算の正答率が県平均より高い。 ●文字式と数の除法や、発展させた事象を式を利用して一般化し説明することに課題がある。	・計算規則の定着を図るために、連立方程式や1次関数で式を扱う際に、既習事項として再度確認する。 ・規則性を読み取りながら帰納的に考えを進められるように、関数領域と関連させて、ともなって変わる量の見方について指導する。
図形	○空間図形における知識・理解に関する問題に対して、正解率が高い傾向にある。 ●正四角錐や球、円柱の体積について、求め方が分かっていても図形相互の関係性について理解が深まっていないようである。	・図形の証明を扱う際には、移動と合同などの基本的な図形の性質を振り返りつつ、パターン的な反復練習を取り入れる。 ・三角形→二等辺三角形→平行四辺形の流れの中で、それぞれの持つ図形の特徴の関係を押さえる。
関数	○比例・反比例について、県平均とほぼ同じ、もしくはそれ以上の正答率となっている。特に、比例の関係式を表す式についてよく理解されている。 ●反比例に関する数学的な見方や考え方に関わる問題の正答率が50ポイント以下である。	・1次関数の学習時に、身近な題材で比例・反比例の特徴について復習をする。 ・関係式のもつ意味、グラフの意味や見方、表とグラフの関係など根本的な部分の理解を深めさせていきたい。
資料の活用	○度数分布表についてよく理解されている。 ●資料の傾向をとらえて判断し、説明することに課題がある。	・相対度数や階級、階級値、代表値を表すだけでなく資料を「比較する」ことを通して、違いから言えることを考えさせる。 ・今後の確率では、文章を読み取って場面を把握する力が必要であるため、樹形図やパターン分けなど順序よく考えて分かりやすくする方法について指導する。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	52.2	54.0	53.3
	身の回りの物質	52.3	52.9	50.0
	植物の生活と種類	65.8	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	57.5	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	48.5	48.2	46.7
	観察・実験の技能	61.2	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	59.9	61.4	59.2



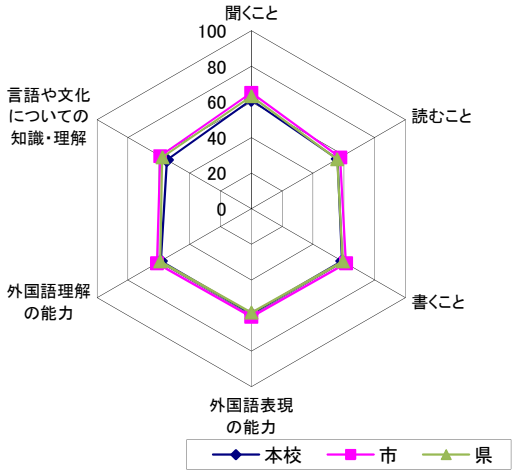
★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○音は波形で表すことができること、また、その波形からどのようなことがわかるか問う問題への正答率が県の平均より高いことから、理解度が高いと見られる。 ●光の反射の知識についての正答率が低い。また、身近な鏡による現象について考える問題に対しての正答率が低く、反射という現象についての理解度に課題が見られる。	鏡は日常生活で頻繁に用いているが、日常で起きている現象と、学んだ内容とがうまくつながっていないことがわかったので、光の反射、鏡を用いた実験に関する問題をとりあげるとともに、実際に演示実験、鏡を用いて現象を確認することを行い、身近な現象と学習を結びつける必要がある。
身の回りの物質	○状態変化について問う問題に対する正答率が高く、温度変化と状態変化がうまく関連づけられている。 ●水溶液についての問題の正答率が低く、水溶液という概念がうまく形成されていないことがうかがえる。	水溶液が何か大まかな概念は持っているものの、溶媒に溶質が溶けているという状態に関する概念が充分に形成されていない。目に見える様子では溶質は消えたように見えてしまうことから誤概念を形成しやすい内容であることから、映像やモデル図などを教材として用いて再度概念形成させたい。
植物の生活と種類	○植物の蒸散量に関する質問への正答率が高い。蒸散の実験に関する実験操作の意味と、その実験結果の分析がうまくできている。 ●顕微鏡の使い方に関する問題の正答率がとても低い。	観察の際に顕微鏡を用いることは多々あるものの、1年生の最初に操作を学んだきり、再確認する機会は設けていない。そのため、誤った手順で観察を行い、そのまま定着してしまったことが予想される。実技テストなどを行い、再度正しい使い方を身につけさせる必要がある。
大地の成り立ちと変化	○地震に関する質問の正答率が高く、地震が波として伝わること、またその伝わり方に関して高い理解度が見られる。 ●火成岩に関する問題の正答率が低い。どのように火成岩ができるのか、また、マグマの特徴による岩石の特徴についての知識が定着していない。	火成岩を実際に観察することは行ったが、その岩石の特徴がマグマのどのような特徴による物なのかがうまく理解できていない。映像教材を用いるとともに、スライムを使用した演示実験などを通して、マグマのようす、それに伴う火成岩の特徴の理解を深めたい。

宇都宮市立国本中学校 第２学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	61.2	65.2	63.2
	読むこと	55.9	57.6	55.6
	書くこと	58.8	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	59.2	60.7	58.4
	外国語理解の能力	58.8	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	54.8	59.2	57.8



★指導の工夫と改善　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○動作と日付を聞き取る問題やwhose, Let's, whatを用いた対話文への理解が県の平均とほぼ同じである。また、まとまりのある英語を聞いて、練習する曜日や試合の場所を聞き取る問題でも県の平均とほぼ同じである。 ●曜日と時刻、物の位置、数の大きさを聞き取る問題では、県の平均を下回っている。	・数字や曜日を対話活動に取り入れ、定着を図り、適切な応答の仕方が出来るように指導する。
読むこと	○対話文やグラフから人数を読みとったり、まとまりのある文章を読んで下線部が指す内容を読み取ることについて、県の平均を上回っている。 ●対話文の中で、代名詞heの目的格への理解が県の平均を下回っている。	・代名詞を意識した会話活動を取り入れ、会話表現の中で文法を理解出来るように指導する。
書くこと	○テーマに基づき得意なこと、または好きなことを表す英作文では、県の平均を上回っている。 ●語順の理解において、否定の命令文を理解し正しい語順で書いたり、How manyの疑問文を理解し正しい語順で書くことについて、県の平均を下回っている。	・語順ドリルを多く行い、基礎的な英文を定着させる。また、疑問詞に対応した英作文が書けるように練習をしていく。

宇都宮市立国本中学校 第２学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の質問で県平均約75％に対して本校は約83％と高ポイントである。学習の楽しみの本質を分かっている生徒が多いといえる。
○「授業で友人と話し合ったり、発表し合ったりすることが好き」が県平均を越えている。また、質問をすることも多く、授業に能動的に参加していることが分かる。
○「自分には良い所がある。」が約78％で県平均より4％多く、「自分の行動や発言に自信をもっている。」が約63％で9％高い。昨年、学年で「ほめて自信をもたせる」指導に取り組んだ成果がでた。今後も自己肯定感の高い生徒を育成したい。
○「学級活動」は将来のために大切と思う生徒が、県より16％も高い。話し合い活動を好む姿勢が読み取れる。
○「好きな教科」として、国語、保健体育、技術・家庭、総合的な学習の時間、道徳が高い。特に道徳が県平均約68％に対して、本校平均は約82％である。ここにも自分の考えを話すことが得意な本校生徒の強みがあらわれている。
●「美術」が好きな生徒が県平均より約20％少ない。生徒が興味のある題材を選定したり、教師の指導を工夫したりして、改善に取り組んでいる。
●「家庭学習の時間」が1時間未満の生徒が約37％で、県平均の26％より多い。家庭学習時間の増加が、学力向上の鍵と思われる。各教科で宿題の出し方を工夫したり、学級活動で話し合いをしたりと、教師と生徒で一緒になって、家庭学習の時間確保に努めたい。
●スマホなどの通話やメール、インターネット利用時間が、平日4時間以上の生徒が8．3％と県の5．6％に比べ高い。家庭学習の不足や健康面が心配である。保護者会や学年通信で、保護者の方にもご協力を依頼したい。